

飛島（山形県酒田市）における標識調査

大沢八州男（日本鳥類標識協会）

飛島は、山形県酒田市の北西約39Kmの日本海上に位置するはなれ島で、周囲約10.2Km、島の最高点は68m、沖合いから眺めると平たいテーブル状に見える。台地状の島の上部は照葉樹のタブノキやクロマツの林で覆われ、畑の耕作地が点在している。また、周辺には御積島、烏帽子群島など大小様々な島もある。

渡り鳥の中継地としてよく知られており、本土では確認の少ない種類も含め、これまで300種近く観察されている。また、1万羽を超えるウミネコが繁殖しており、御積島と館岩はウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている。

飛島における標識調査は、1982年から実施され、2003年までに約90種、約16000羽が放鳥されている。調査は、主に春と秋の渡りの時期におこなわれている。特に、1987～1993年の7年間、山階鳥類研究所が行った「小鳥類の春の渡り調査」では、約10000羽が放鳥され、日本海側の春の渡り鳥に関して多くの新知見が得られたことが、「鳥類観測ステーション報告」に載せられている。

稀な鳥種の標識例として、アカガシラサギ、ヨーロッパピンズイ、オオモズ、ヤマヒバリ、カラアカハラ、ムジセッカ、カラフトムジセッカ、キマユムシクイ、マミジロキビタキ、ムギマキ、オジロビタキ、シラガホオジロ、シロハラホオジロ、コホオアカ、キマユホオジロ、ミヤマシトド、チャキンチョウなどがある。

これまでの回収例は24例あり、飛島外放鳥飛島回収11例、飛島放鳥飛島外回収13例。種類としては、アオジ8例、ウグイス4例、メジロ3例、ルリビタキ、シジュウカラ各2例、ジョウビタキ、トラツグミ、ツグミ、カシラダカ、ベニマシコ各1例となっている。興味ある回収例として次のような例がある。

- ・ ウグイス 飛島（秋、1ヶ月後） 沖縄県石垣市
- ・ ルリビタキ 石川県能美郡根上町（春、3日後） 飛島
- ・ " 北海道函館山（秋、7日後） 飛島
- ・ ジョウビタキ 飛島（秋、11日後） 茨城県日立市
- ・ アオジ 北海道札幌市（秋、13日後） 飛島